

まず、中学時代の道徳をどう感じてたか。中1の初めは小学校の延長上と感じていて、中1の担任の先生が道徳で初め取り上げた題材が戦争で特攻隊の話を経験した感じだったと記憶しています

中1の頃は先生も道徳の初級みたいな感じで考えやすい、話しやすい感じで進めてくれていたと記憶していますが、小学校の時に学習会に参加してた流れで中学も参加した時、1年の隣のクラス担任の吉成先生に出会い、その日、初日から〇〇(字名)は同和で……って感じていきなりアクセル全開で飛ばしてたように感じました。それから、道徳の授業を意識してしっかり取り組むようになったと思っています。

それと、たまたまでしたが、1年の秋の新人戦の頃に野球で怪我をして新人戦から離脱し、野球に対する熱意が少し無くなり、野球≦道徳となり、それも重なり中学3年間の取り組みに繋がったと思います。他人事では無くて自分の事だと思ひ、それから2年間は吉成先生が担任だった事もあり、道徳、特に同和問題については学校や学習会で勉強し、力を付けさせてもらったと思っています。

けど、初めは吉成先生ともそんなに深く関わってなくて他人行儀な感じで、あくまでも先生と生徒のぐらいで2年の後半ぐらいから腹を割って話すようになって、それと同じぐらいから道徳の授業が濃いものになっていったりように記憶しています。

あの時感じた事が2つあって、なぜ2年の後半から道徳が濃くなりだしたのかと、少し酷いことを言いますが、なぜYやMなどがそんなに同和問題について深く打ち込めたのが、初めの頃は分かりませんでした。

けど、2つ目に感じた事は初めの方だけで、今はそう思う事はありません。

僕は中学時代の3年間の道徳の授業は、学力以外の自分が必要な事を教えてくれた時間で、僕にとってはあの時間が学校に行くモチベーションにもなったので、応神中学校で良かったと思っています。

《吉成からの返信》

なるほど、そうか。よくわかった。みんな、似たような感想を書いてくる。やはり、この学習は必要なんだなと、自分は思うよ。学校に行く、学習する動機付けになっている。自分を出すこと、自分を認めること、自分の

考えを持つこと、人を認めること、人とつながること、高め合うこと、人権の視点をもつこと、大切なことはいっぱい。

《本人からの返信》

生きて行く上で必要な事だけど、自分には足りてない事をあの時間で高められた気がします。

「今、自分はどう生きてるか」について特に思う事は、人の話を聞く楽しさは、道徳のおかげだと思います。人の話を聞く、色々な意見を聞く楽しさを知った事は、今の自分にとっても生きてる事だと思います。

《吉成からの返信》

今、それができないストレスとジレンマで、自分を見つけに熊本に来ています。ボランティアに参加してる若者、高校生の多さに驚いています。私たちのしてきた教育は間違いではなかったのかなと、その姿に救われた思いになってます。

《本人からの返信》

先生は今、大変苦しい思いをされてるみたいですが、うまく伝わらないかもしれないけど、今、先生が闇の中というか、森の中で迷子になってるというか、そんな状況としても、先生ならその状況を打開できる力はあると思うし、もし先生が自分だけではダメでも、救助というか助けくれる人たちは先生にはたくさんいるし、闇も時間が経てば勝手に向こうから無くなってしまう事もあると思うので、闇や森を抜けて、また一段と磨きのかかった吉成正士になってると僕は思うので、また先生と会う機会を楽しみにしています。

僕自身の事ですが、仕事の配属先が徳島になったので、研修期間が終わり現場デビューをして、落ち着いてきたら先生をご飯に誘いたいと思ってるので、それをモチベーションに、これからの研修と仕事頑張っていきたいと思ひます。